

薬史レター

日本薬史学会

JSHP



第52号

2009年3月

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 (財)学会誌刊行センター内 日本薬史学会事務局
TEL (03)3817-5821 FAX (03)3817-5830 URL <http://yakushi.umin.jp/>

2009(平成21)年度日本薬史学会 総会・講演会案内

下記により、2009(平成21)年度総会・講演会を開催いたします。

日時：2009(平成21)年4月18日(土)

場所：東京都文京区本郷・東京大学構内

総会：14時00分～ 東大薬学研究科総合研究棟講堂

公開講演：15時00分～

「日本へのキナ導入の足跡をたどって」

南雲 清二氏 (星薬科大学准教授)

「くすりと倫理」

加藤 尚武 (鳥取環境大学名誉学長)

懇親会：18時00分～ ¥4,000 東大・山上会館

なお、本年の理事・評議員会は、学生会分館閉館のため中止と予告しましたが、総会と同じ建物の10階の東京大学・薬学部大会議室で開催することになりましたので、関係者には通知いたしました。

第2回柴田フォーラムのお知らせ

第2回柴田フォーラムを下記により開催することが決まりました。

日時：2009(平成21)年8月4日(火) 14時～16時30分

場所：昭和大学病院17階第2会議室 (品川区旗の台1-5-8)

演題：(1)「切手で綴る薬学の歴史」(30分)

平林 敏彦先生((財)医薬情報担当者教育センター常務理事)

(2)「薬学教育改革への薬学部の取り組み」(60分)

望月 正隆先生(東京理科大学薬学部教授)

懇親会：16時30分～18時ごろ(会場：同上17階レストラン)

日本薬史学会 2009 年会(金沢)のお知らせ

研究発表演題の募集

日 時：平成 21 年 11 月 7 日(土)

年 会 長：徳久 和夫(石川県薬剤師会会長)

会 場：金沢市 金沢大学自然科学本館(角間キャンパス)

主 催：日本薬史学会・石川県薬剤師会

協 賛：北陸医史学会、金沢大学、北陸大学、東洋医学会北陸支部

研究発表：口頭発表(1 演題 20 分：発表・質疑応答)

申込方法：FAX または E-mail で下記の必要事項を記入し年会事務局へお送りください。

1. FAX の場合：「日本薬史学会年会研究発表申込」とプリント印字した A4 用紙にプリント印字で下記(1)、(2)、(3)の順でご記入ください。

(1) 研究発表演題

(2) 研究者全員の氏名(発表者に○)と所属

(3) 連絡先・住所・氏名・電話・FAX・E-mail

2. E-mail の場合：添付形式にせず、メール本文に上記(1)(2)、(3)の順で必要事項を記入し送信してください。

なお、発表者は発表申込時点で日本薬史学会会員に限ります。。

発表演題申込の締切：平成 21 年 7 月 17 日(必着)

発表要旨提出の締切：平成 21 年 9 月 11 日(必着)

年会参加申込：年会参加申込等については次号にご案内いたします。

年会事務局：連絡先；(社)石川県薬剤師会 担当；河上康伸

〒920-0032 金沢市広岡町イ 25-10

電話：076-231-6634

FAX：076-223-1520

E-mail：kenyaku@plaza-woo.jp

日本薬学会第 129 年会(京都)

日 時：2009(平成 21)年 3 月 26 日(木)～28 日(土)

薬学史関係の発表：ポスターによる発表(12 題)(3 月 26 日)、口頭発表(1 題)(3 月 27 日)

薬学史 ポスター発表(3 月 26 日)

- ・日向薬(ひゅうがくすり)事始め(その 7)―延岡における医学所「明道館」の設立と藩士教育

○山本 郁男^{1,2}、井本 真澄^{1,2}、宇佐見 則行^{1,2}、岸 信行^{2,3}

(¹九州保福大薬、²九州保福大 QOL 研究機構、³延岡北小路調剤薬局)

- ・Studying the Drugs Cited in Medical Texts of Ancient China from the Perspective of Productivity

○塩原 仁子¹、真下 順一¹(¹昭和大薬)

・家畜医範書き込み薬物処方からみる薬物処方に関する考察

○島 和嗣¹、久保 光平²、畠山 貴博³、大垣 旭⁴、小松 知貴⁴、澤田 采佳⁵、小松 直登⁶、木村 壮太郎⁷、
西野 ゆり⁸、林 優樹⁹、西野 正雄¹⁰、菰田 綾佳¹¹、宮本 如奈¹²、高倉 弘士¹³、畠山 有里¹⁴、畠山 光弘¹⁵
(¹金剛高校、²四天王寺羽曳が丘高校、³初芝富田林高校、⁴河南高校、⁵西浦高校、⁶東住吉高校、⁷藤井寺高校、⁸長野高校、
⁹富田林高校、¹⁰早稲田大学、¹¹関西福祉科学大学、¹²同志社大学、¹³立命館大学、¹⁴長崎大学、¹⁵畠山獣医科)

・明治期理礼氏薬物と家畜医範の薬物比較

○小松 知貴¹、大垣 旭¹、島 和嗣²、久保 光平³、畠山 貴博⁴、澤田 采佳⁵、木村 壮太郎⁶、小松 直登⁷、
西野 ゆり⁸、林 優樹⁹、西野 正雄¹⁰、菰田 綾佳¹¹、宮本 如奈¹²、高倉 弘士¹³、畠山 有里¹⁴、畠山 光弘¹⁵
(¹府立河南高校、²府立金剛高校、³四天王寺羽曳が丘高校、⁴初芝富田林高校、⁵府立西浦高校、⁶府立藤井寺高校、
⁷府立東住吉高校、⁸府立長野高校、⁹府立富田林高校、¹⁰早稲田大学(基幹理工)、¹¹関西福祉科学大学、¹²同志社大学(文)、
¹³立命館大学(産業社会)、¹⁴長崎大学(薬)、¹⁵畠山獣医科)

・日本における寄生虫感染の治療と対策に関する史的考察

○牧 純¹、西岡 麗奈¹、関谷 洋志¹、玉井 栄治¹(¹松山大薬)

・理礼氏薬物学(第十一巻)にみる薬物

○大垣 旭¹、小松 知貴¹、島 和嗣²、久保 光平³、畠山 貴博⁴、小松 直登⁵、木村 壮太郎⁶、澤田 采佳⁷、
西野 ゆり⁸、林 優樹⁹、西野 正雄¹⁰、菰田 綾佳¹¹、宮本 如奈¹²、高倉 弘士¹³、畠山 有里¹⁴、畠山 光弘¹⁵
(¹府立河南高校、²府立金剛高校、³四天王寺羽曳が丘高校、⁴初芝富田林高校、⁵府立東住吉高校、⁶府立藤井寺高校、
⁷府立西浦高校、⁸府立長野高校、⁹府立富田林高校、¹⁰早稲田大学(基幹理工)、¹¹関西福祉科学大学、¹²同志社大学(文)、
¹³立命館大学(産業社会)、¹⁴長崎大学(薬)、¹⁵畠山獣医科)

・理礼氏薬物学(第十二巻)にみる薬物

○久保 光平¹、大垣 旭²、小松 知貴³、島 和嗣³、畠山 貴博⁴、小松 直登⁵、木村 壮太郎⁶、澤田 采佳⁷、
西野 ゆり⁸、林 優樹⁹、西野 正雄¹⁰、菰田 綾佳¹¹、宮本 如奈¹²、高倉 弘士¹³、畠山 有里¹⁴、畠山 光弘¹⁵
(¹四天王寺羽曳が丘高校、²府立河南高校、³府立金剛高校、⁴初芝富田林高校、⁵府立東住吉高校、⁶府立藤井寺高校、
⁷府立西浦高校、⁸府立長野高校、⁹府立富田林高校、¹⁰早稲田大学(基幹理工)、¹¹関西福祉科学大学、¹²同志社大学(文)、
¹³立命館大学(産業社会)、¹⁴長崎大学(薬)、¹⁵畠山獣医科診療所)

・理礼氏薬物学(第十三巻)にみる薬物

○宮本 如奈¹、島 和嗣²、久保 光平³、畠山 貴博⁴、大垣 旭⁵、小松 知貴⁵、澤田 采佳⁶、小松 直登⁷、
木村 壮太郎⁸、林 優樹¹⁵、西野 ゆり⁹、菰田 綾佳¹¹、西野 正雄¹⁰、高倉 弘士¹²、畠山 有里¹³、畠山 光弘¹⁴
(¹同志社大学(文)、²府立金剛高校、³四天王寺羽曳が丘高校、⁴初芝富田林高校、⁵府立河南高校、⁶府立西浦高校、
⁷府立東住吉高校、⁸府立藤井寺高校、⁹府立長野高校、¹⁰早稲田大学(基幹理工)、¹¹関西福祉科学大学、¹²立命館大学(産業社会)、
¹³長崎大学(薬)、¹⁴畠山獣医科診療所、¹⁵府立富田林高校)

・理礼氏薬物学(第十四巻)にみる薬物

○西野 正雄¹、島 和嗣²、久保 光平³、畠山 貴博⁴、大垣 旭⁵、小松 知貴⁵、澤田 采佳⁶、小松 直登⁷、
木村 壮太郎⁸、西野 ゆり⁹、林 優樹¹⁰、菰田 綾佳¹¹、宮本 如奈¹²、高倉 弘士¹³、畠山 有里¹⁴、畠山 光弘¹⁵
(¹早稲田大学(基幹理工)、²府立金剛高校、³四天王寺羽曳が丘高校、⁴初芝富田林高校、⁵府立河南高校、⁶府立西浦高校、
⁷府立東住吉高校、⁸府立藤井寺高校、⁹府立長野高校、¹⁰府立富田林高校、¹¹関西福祉科学大学、¹²同志社大学(文)、
¹³立命館大学(産業社会)、¹⁴長崎大学(薬)、¹⁵畠山獣医科診療所)

・理礼氏薬物学(第十五巻)にみる薬物

○小松 直登¹、西野 ゆり²、林 優樹³、西野 正雄⁴、菫田 綾佳⁵、宮本 如奈⁶、高倉 弘士⁷、畠山 有里⁸、
島 和嗣⁹、久保 光平¹⁰、畠山 貴博¹¹、大垣 旭¹²、小松 知貴¹²、澤田 采佳¹³、木村 壮太郎¹⁴、畠山 光弘¹⁵
(¹府立東住吉高校、²府立長野高校、³府立富田林高校、⁴早稲田大学(基幹理工)、⁵関西福祉科学大学、⁶同志社大学(文)、
⁷立命館大学(産業社会)、⁸長崎大学(薬)、⁹府立金剛高校、¹⁰四天王寺羽曳が丘高校、¹¹初芝富田林高校、¹²府立河南高校、
¹³府立西浦高校、¹⁴府立藤井寺高校、¹⁵畠山獣医科)

・理礼氏薬物学(第十六巻)にみる薬物

○澤田 采佳¹、島 和嗣²、畠山 貴博³、大垣 旭⁴、小松 知貴⁵、久保 光平⁸、小松 直登⁶、木村 壮太郎⁸、
西野 ゆり⁹、林 優樹¹⁰、西野 正雄¹¹、菫田 綾佳¹²、宮本 如奈¹³、高倉 弘士¹⁴、畠山 有里¹⁵、畠山 光弘¹⁶
(¹府立西浦高校、²府立金剛高校、³初芝富田林高校、⁴府立河南高校、⁵府立河南高校、⁶府立東住吉高校、⁷府立藤井寺高校、
⁸四天王寺羽曳が丘高校、⁹府立長野高校、¹⁰府立富田林高校、¹¹早稲田大学(基幹理工)、¹²関西福祉科学大学、¹³同志社大学(文)、
¹⁴立命館大学・院、¹⁵長崎大学(薬)、¹⁶畠山獣医科)

・理礼氏薬物学(第十七巻)にみる薬物

○西野 ゆり¹、島 和嗣²、久保 光平³、畠山 貴博⁴、大垣 旭⁵、小松 知貴⁵、澤田 采佳⁶、小松 直登⁷、
木村 壮太郎⁸、林 優樹⁹、西野 正雄¹⁰、菫田 綾佳¹¹、宮本 如奈¹²、高倉 弘士¹³、畠山 有里¹⁴、畠山 光弘¹⁵
(¹府立長野高校、²府立金剛高校、³四天王寺羽曳が丘高校、⁴初芝富田林高校、⁵府立河南高校、⁶府立西浦高校、
⁷府立東住吉高校、⁸府立藤井寺高校、⁹初芝富田林高校、¹⁰早稲田大学(基幹理工)、¹¹関西福祉科学大学、¹²同志社大学(文)、
¹³立命館大学・院(産業社会)、¹⁴長崎大学(薬)、¹⁵畠山獣医科)

薬学史 口頭発表(3月27日)

・往時のメディアに現れた星一の評伝

三澤 美和(星薬大・薬理)

日本医史学会・日本薬史学会・日本獣医史学会・

日本歯科医史学会・日本看護歴史学会 合同12月例会報告

五位野 政彦、末廣 雅也

科学を学ぶことはその歴史を学ぶことである。

先人の経験、研究、業績や思想、そしてそのゆるぎない結果が科学の知識であり、それを現代のわれわれが利用しているのである。医療も例外ではない。医療の現場で行っていることは、すべて先人の足跡を踏んでいることである。

毎年12月に行われる合同例会は、その医療に関する歴史をそれぞれの分野で研究している五学会が年に一度共通の場でその発表を行う会である。また、参加者はおなじ「医療」に携わっていても、なかなか窺い知ることのできないそれぞれの領域の知識や背景を共有することが可能になる。大変有意義な

会である。

当初薬史学会と医史学会の合同研究会として1993年に開催されて十余年、その後、歯科医史学、獣医史学、そして2007年からは看護歴史学会が加わり、日本の医療分野の歴史研究の総合的なまとまりがここにある。

今回は薬史学会が当番学会として司会進行などをつとめた。川瀬清理事による司会進行により、五講演は滞りなく無事終了した。またその後の懇親会では、マイクトラブルなどもあったが、80余名の参加者を得て和やかな雰囲気の中、相互学会間の交流が行われた。

懇親会には参加いただけなかったが、講演会には柴田承二前会長も姿を見せられ、薬史学会としても大いに気概を持った会にすることができた。

当日の進行は次の通りであった。

(1) 例会発表

期 日：2008年12月13日(土) 14:00～17:10

会 場：順天堂大学医学部9号館2階8番教室

研究発表：

1. 「明治21年磐梯山噴火における災害救助活動」 川原 由佳里 (看護歴史学会)
 - ・明治21年(1888年)に福島県の磐梯山が噴火し、死者470名以上、負傷者は70名を数える大災害となった。その際の医療活動に関する報告である。
 - 地元の医師が中心となった医療活動であり、県外からの医師派遣は一部であった。
 - また看護婦の関与が少なかったのは歴史的にまだその役割が軽んじられていたためであったであろうか。
2. 「歯科大学における医療倫理教育」 関根 透 (歯科医史学会)
 - ・歯科大学での医療倫理教育について、医学教育との比較を交えての報告であった。
 - 歯科医師法と医師法では倫理関連の条文はほぼ同じ内容であり、またCBTや国試でも類似の問題が出題されている。
 - 各歯科大学には倫理審査委員会が設置されている。また日本歯科医師会も平成20年に『信頼される歯科医師Ⅱ』を発行、配布している。
3. 「馬醫の祖“伯楽”と“伯楽鍼経”の展開」 亀谷 勉 (獣医師学会)
 - ・語源(馬、醫、獣、あるいは獣医、veterinaryなど)から獣医学の古代の獣医学の歴史などを交えたエピソードあるいは、獣医学に関する書籍の歴史などを話された。
 - また獣医学、特に馬に関する治療の歴史を語られ、主として中国古典における“伯楽”(B.C.7世紀)とその背景、獣医学における鍼治療などの歴史とその有用性、可能性についても語られている。
4. 「小島宝素家の医書研究と楊守敬の医書校刊」 真柳 誠 (医史学会)
 - ・清国末の学者、楊守敬の収集した医書とその背景についての講演である。
 - 明治時代になって来日した楊守敬は日本で徳川幕府の代々の医師であった小島家の医書を小島尚質死去後に大量に購入し、清国に持ち帰った。現在、それらの書籍は故宮博物院(台北)、国家図書館(台北)に保管されている。
 - 薬史学会の評議員でもある演者はそれらを詳細に調査した結果を報告したが、再刊行された『聿修堂医学叢書』についての研究は特に印象深かった。

5. 「マリー・キュリー夫人と放射能研究に殉じた最初の日本人研究者・山田延男一日仏修好 150周年に因んで」
山田 光男 (薬史学会)

・1920年代に、放射線研究の目的で渡仏した山田延男(東京帝国大学・航空研)の記録について遺族である演者は淡々として講演された。

山田延男博士が核エネルギーの時代が訪れることを予想されたかどうかを知る由もないが、2年間のラジウム研究所での研究活動はマリー・キュリー夫人、その娘のイレーネなどとともに有意義なものであった。しかし、当時は被爆に関する知識は皆無で現代の眼から見ると放射線障害による疾患にかかったと思われ、帰国後「原因不明の奇病」として早逝した。日本人の最初の放射能障害の犠牲者であった。

数少ない残存資料(伝染病を疑われ、故人の遺品は処分されてしまっている)は、現代の調査でも放射能が残存していることが確認されている。(身につけていた旅券、革製の旅券ケース等)

講演後、日仏薬学会会長でもある竹中祐典評議員から本講演と日仏修好 150年に関連したコメントがあったが、本講演は、2009年9月に日仏会館で開催された「日仏交流 150周年【日仏関連学会シンポジウム】日仏学術交流のルネッサンス」での日仏薬学会講演、「マリー・キュリー夫人と放射線研究に殉じた最初の日本人」に新規事項、図版を加えて内容を改めたものである。

(2)懇親会(17:30~19:00)

懇親会は、順天堂医院内のレストラン「ヒルトップ」で行われた。

冒頭のあいさつを薬史学会の山川会長が行い、引き続き講演会の司会の労を取られた川瀬理事の乾杯の音頭で懇親会が開催された。

料理、飲み物ともに十分に提供された。この手はずを取られた順天堂大学医史学教室ならびに医史学会のスタッフに感謝を述べたい。

途中マイクのトラブルがあったが、西脇氏(歯科医史)、小佐々氏(獣医史)、芳賀氏(看護歴史)のあいさつもいただいた。

また、中締めのみあいさつを酒井シヅ先生(医史、薬史)におねがいをした。

維新とフランス—日仏学術交流の黎明

日仏交流百五十周年記念特別展示(入館無料)

場 所：東京大学総合研究博物館(東大懐徳門または赤門が便利です)

ハローダイヤル/03-5777-8600

期 間：3月28日(土)~5月31日(日) 10:00~17:00

(月曜休館：祝日の場合は開館し、翌日休館)

フランス大使館、(財)日仏会館などの協賛で開催されるこの展覧会に於いて、本草学者小野蘭山、島田充房著『花彙』(宝暦9年)を仏訳し、また『日本植物目録』(2巻)(1874、1879年)をフランスで出版したリュドヴック・サヴァチェ(横須賀製鉄所お雇いの海軍外科医で、横須賀に1866~1876年在住)のコレクションが展示されます。

(以上は竹中祐典評議員よりの連絡によります。)